



「心が寄り添う3月の校舎で」

～先輩の未来を願う後輩のまなざしと、春へ向かう子どもたちの確かな成長～

校長 森角 由希子

3月は、校内の空気がふんわりと春の気配をまとい、子どもたちの表情にも、次の季節へ向かう準備が静かに感じられる頃です。卒業式が近づき、3年生はそれぞれの進路に向けて、最後の仕上げに取り組んでいます。そのような中、校長室前に置いた、「だるま」に書かれた一つのメッセージが、私の心をそっと温めてくれました。

それは、1・2年生と思われる生徒が書いたものでした。卒業していく先輩が希望する道へ進み、その先の高校生活が穏やかで実りあるものになりますように——そのような願いが込められた、やさしい言葉でした。自分の願いではなく、卒業していく先輩の未来を思い、心からのエールを込めたその一文に、子どもたちの成長をしみじみと感じました。誰かの幸せを願う気持ちは、学びの成果とは別の、人生を支える大切な力です。こうした思いが自然に生まれる学校であることを、私はとても嬉しく思います。

卒業式は、3年生にとって新しい道へ踏み出す大切な日であり、在校生にとっては、先輩たちから受け継ぐものを胸に刻む日でもあります。だるまに書かれたメッセージは、その「受け継ぐ心」を象徴しているように感じられました。子どもたちが互いを思い合い、励まし合いながら成長していく姿を、保護者の皆さまと一緒に見守ることができるのは、学校にとって何よりの喜びです。

この一年、保護者の皆さまには、日々の学校生活を温かく支えていただきました。お子さまの成長を信じ、時に励まし、時に寄り添いながら歩んでこられたその姿勢が、子どもたちの力になっています。心より感謝申し上げます。また、地域の皆さまにも、日々の見守りや行事へのご協力を通して、学校を支えていただきました。子どもたちが安心して学び、挑戦できる環境は、皆さまのお力添えがあってこそ成り立っています。

まもなく迎える卒業式は、3年生の未来を祝うとともに、ここまで支えてくださったすべての皆様への感謝を静かにかみしめる時間でもあります。春の訪れとともに、子どもたちがそれぞれの道で新しい一歩を踏み出せるよう、これからも学校と家庭、地域があたたかくつながりながら見守っていければと願っています。

